

阿久悠さん作詞、加藤登紀子さん作曲

富士山テーマの歌CDに



阿久悠さんが作詞した「富士が好き」の歌詞を手にするNPO法人「グラウンドワーク三島」の事務局長、渡辺豊博さん

13日、三島市

「朝に見ても富士は富士 夕べに見ても富士は富士」。平成19年に死去した作詞家、阿久悠さんの詞に、歌手、加藤登紀子さんが曲を付けた歌が、23日の「富士山の日」にCD発売される。政府が推薦書を提出するなど、富士山の世界文化遺産登録を目指す動きが活発化する中、地元の関係者からは「新たなテーマ

曲として定着させたい」との期待の声が出ている。CD化を進めたのは、三島市のNPO法人「グラウンドワーク三島」(GW三島)の事務局長、渡辺豊博さん(61)。世界自然遺産登録への推薦が見送られた後の18年、「富士山の応援歌になるような曲はないだろうか」と知人の音楽プロデューサー、酒井政利さんに相談。伊東市に別荘を持っていた阿久さんが、「富士が好き」とのタイトルで

15年に作品を書いていたことを知った。阿久さんに直接思いを伝え、承諾を得て作曲を加藤さんに依頼。「笑って見ても富士は富士 涙で見ても富士は富士」といった歌詞に、明るくアップテンポな曲調の歌が誕生。曲名は「富士山だ」とした。歌い手の選定作業が進まず、阿久さんの死後も長く「お蔵入り」したままになっていたが、今年1月に政府が富士山を世界文化

遺産登録に推薦したことを契機に関係者らが再度集結。ジャズ歌手らによるユニット「ムーン・リバー・ウォーカーズ」が歌うことが決まり、CDが完成した。1枚1200円で、収益の一部は、富士山の環境保護活動を支援する基金に寄付するという。渡辺さんは「富士山だけでなく、日本の応援歌のような曲になってほしい」と話している。